

# スイス連邦工科大学 留学報告

工学系研究科建築学専攻修士

大沼友佳理

## 1. 留学先

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH)

## 2. 留学期間

2014年2月1日～2015年1月30日 (1年間)

## 3. 出願まで

建築学科に進んで世界の建築を勉強するうちに、実際に海外で勉強してみたい、また、海外の建築を実際に訪れてみたいという思いが強くなり、最終的に修士1年のときに留学を決意しました。スイスの建築に憧れがあったため ETH と EPFL とで迷いましたが、過去に ETH へ留学した先輩からの助言等もあり、ETH を志望しました。出願の準備で一番苦労したのが TOEFL です。私の場合は、決意してから出願締め切りまでが短く、早急に TOEFL の規定点をとることが必要でした。また、TOEFL の試験は回数制限があるため短期に連続受験ができず、締め切りまでに2回しかテストが受けられない中での挑戦となってしまいました。ライティングやスピーキングなどはこれまでの受験勉強と異なるため対策期間が必要で、これから留学を考える学生は、はやめに準備を始めるに越したことはないと思います。無事に必要な書類をそろえ提出したあとは簡単な英語面接があり、そこから1週間程度で派遣決定の連絡をいただきました。

## 4. 留学前の事務手続き

東大からの派遣決定の後、正式に ETH から受け入れ決定の通知を受け取り、ここから留学開始までの間に学生寮への応募、学期前のドイツ語コースの登録、また建築の場合はスタジオの事前抽選がありました。学生寮の応募は必須で、抽選に漏れたヨーロッパの学生などは現地で何週間も住まい探しをしていました。日本からの学生だと応募すればまず間違いなく寮を与えてもらえます。学期前のドイツ語コースは任意ですが私は参加しました。メリットとしては、同時期に他の国から交換留学に来た学生と友達になれること、デメリットとしては入寮翌日より毎日朝から夕方までのコースが始まるので、現地での事務手続きと並行して通うのに忙しいという点が挙げられます。登録は web で行いますが、すぐに枠がいっぱいになってしまうため、登録開始時刻に web サイトにアクセスするといった感じでした。またスタジオの事前抽選は、プライオリティの高い順に決定するといった方式で、逐次 web サイトで応募状況を見られるた

め、様子を見ながら登録すると良いと思います。交換留学生のプライオリティはCランクで、人気の先生はなかなか席を得るのが難しい現状があります。

## 5. 留学準備

持ち物に関しては、現地で医薬品を購入するのに抵抗があったため、普段から使用している常備薬を日本から多めに持って行きました。また、チューリッヒの冬は寒いので、厚手の上着やヒートテック等を用意して持って行きました。加えて建築学生に対しては、普段から使い慣れているカッター、スコヤ等の道具を持参していくことを勧めます。日本で使っているものの方が現地で売っているものより総じて優れている印象でした。持っていけばよかつたと思ったのはちょっとした正装の洋服です。現地でオペラ鑑賞やコンサート鑑賞などに度々出かけたのですが(チューリッヒにはオペラハウスがあり、学生割引で格安で鑑賞できます)、服装に困り、現地で簡単なワンピース、バッグ、靴などを購入しました。

また、留学前に事前に **Citi Bank** で口座を作って行きました。東大生という旨を伝えると月々の口座維持手数料を無料で口座を開設できます。日本で振り込んでもらうと海外 **ATM** で即時引き出しできるので、緊急時の送金などに便利です。

## 6. 留学中の様子

### ■毎日の生活

私の場合は設計スタジオの履修が大きな目的だったため、火曜と水曜はスタジオ、その他の曜日は主にその作業に追われる毎日でした。いくつか座学の授業も履修しましたが、スタジオの提出直前などはなかなか出席が難しいのが現状でした。**ETH** のスタジオは東大のスタジオよりも発表が多い印象で、履修するスタジオにもよりますが、私の場合は2週間に1回くらいの頻度でプレゼンがありました。スタジオごとに特色がありカリキュラムやフォーマットも決まっているため、毎回、次回までに用意してくるものが明示され、それらをこなしていくことで自然と設計が深まっていくといった印象でした。最終講評会はとても華やかで、各階のホワイエのようなスペースにスタジオごとにブースをつくり、同一の日に全スタジオで一斉に行います。自分の発表が終わったら他のスタジオのクリティークを聞きに行くのもよし、自分のスタジオの他の学生の講評を聞くのもよし、建築学科の入る建物中がプレゼンパネルと模型で溢れかえります(ただし先学期からこの方式は廃止されてしまいました)。

### ■休暇の過ごし方

スイスはドイツ、フランス、イタリア、オーストリア等に接しているという立地の強みがあり、チューリッヒからは各国の主要都市へ国際列車が走っているため、スイス国内にとどまらず、様々な国へ旅行へ出かけました。訪れたい建築がたくさんあったため、留学前から建築案

内等を熟読し、また web で情報を集め行きたい建築リストを作成し、今度はここへ行こう、その次はここへ行こうといった感じで数えきれない数の建築を巡りました。設計者の意図や世界観など、実際の建築空間の中に入ると体感として直観的に理解でき、本で見るのとはまた違った発見がありました。日本からの友人と合流したり、また現地の友人たちと出かけたりと、休暇中は思いっきり羽を伸ばしていました。

## 7. 日常生活

### ■語学に関して

ドイツ語が話せなくても英語でなんとか生活できますが、ドイツ語を知っているに越したことはないと思います。チューリッヒの人はほとんど英語を話せますし、公共交通の表記も英語が並記されていますが、地方などに足をのばすと英語が通じないことも多々ありました。私はドイツ語を学んだ事がなかったので留学前に簡単な本でざっとドイツ語を勉強していき、また前述の通り学期開講前の 2 週間のドイツ語コースを履修しましたが、現地で使うにはまだまだ足りないというのが正直な感想でした。授業もドイツ語の講義はまったく意味が理解できず主に英語のものを履修していましたが、ドイツ語のものでも面白そうなものがたくさんあったため、少し残念に感じています。

### ■街の様子と物価

チューリッヒは公共交通が非常に発達しており、電車、バス、トラム相互の接続もよく、重宝しました。街も非常に美しく清潔で治安もよく、とても過ごし易い街でした。一方で物価は非常に高く、マクドナルドでセットを頼むと 1000 円を超えてしまうといった具合でした。外食はほとんどせず、主に大学の学食を利用していました。

### ■学生寮の様子

私は大学から斡旋された flat に住んでいました。家賃は 1 ヶ月あたり 590CHF、日本円で約 6 万円程度でした。ETH はたくさん物件を持っているため、当たる物件によって家賃は上下するようです。私が住んでいたところは、各々が個室を持ち、各階ごとに 10 人程度で一つのキッチンと、4 つのトイレと、2 つのシャワールームをシェアするタイプの物件でした。近くにスーパーもあり、私の通う建築学科のキャンパスまでバスで 10 分以内の場所だったため、大変便利でした。学期ごとにメンバーが入れ替わり新しい顔ぶれになります。シェアスペースでの flat mate との会話も楽しいものでした。

### ■友人に関して

今回の留学を通して現地で知り合った友人たちは、この留学の最大の収穫の一つだと思います。特に仲良くなったスイス人の友達とは、帰国後もスカイプで話したり、メッセージのやり取りをしたりと交流が続いています。私同様に建築を学んでいる学生なので、スイスや日本の

建築に関して意見を交わしたりと、交流を通してお互いの建築への理解も深まり、彼女から学んだことはとても大きいと感じています。同じ専門分野の海外の友人を持つことは私に新しい価値観を与えてくれました。

## **8. 就職活動について**

私はもともとアトリエ系事務所志望だったため、留学中は就職活動等はありませんでした。ただ、現地の友人や他の日本からの留学生等との交流を通し、より強く設計者としての将来を考えるようになりました。自分の目指したい建築が、今回の留学を通して以前より明確に意識できるようになったと感じています。

## **9. 総括**

今回の留学を通して、大学での講義だけでなく、日常生活や旅行も含めて、日本の大学で学んでいたのでは決して経験することのできない多くのことを学ぶことができました。困難もたくさんあったけれど、それを差し引いてもあまり余るような一年を過ごせ、この経験は一生の財産になると感じています。これから留学を考えている学生がいたら、ぜひ積極的に交換留学の制度を利用し、どんどん海外に飛び出していくことを勧めます